





## 身辺雑感 67

### 『リョウゼン』

私が加入して居ります K 市の山岳愛好会が 11 月上旬に安達市に在るリョウゼン(以下「靈山」と書きます。)に、ハイキングに行き行って参りました。此の山には 10 年ほど前に今回と同じグループでハイキングをしたことがあります。その際は私も家内と共に参加しましたが、今回は、私 1 人の参加となりました。

前回と同じコースを辿ることになり、登山口(以下「登山」と書きます。)で、伊達市の係りの方と思われる方から伊達市作成の「靈山県立自然公園登山マップ」を頂きました。このマップには四季の靈山の美しい写真と歴史が簡潔に記載されていました。靈山の歴史の項を見ると、靈山は「国の史跡名勝及び、県立自然公園に指定されている。(平安初期「859 年」に自覚大師により開山され、南北朝期には南朝の忠臣、北畑顕家が義良親王、(後の後村上天皇)を奉じて陸奥の国府を開いたことは史上有名なことである。以来、六百数十年を経た今日、靈山城跡及び靈山寺跡は学術的な手も加えられないまま深く埋もれたままになっている。)」と。

K 市市役所 P を 7:10 チャーターしたマイクロバスが、会員等 20 人を乗せて出発、4 号国道等を快適に走り抜けて、9:30 登山口の P に無事到着。靈山登山口 P からの眺めは、今が盛りの見事な紅葉が切り立った岩山と調和して息をのむ程美しい風景だ。まさに登山マップの秋の風景と同じ。同所で G さんの指導により、全員元気に準備体操をした後、何時もの通り、W さんを先頭にして登山開始。当初の登山計画書に従い、登山口を出発して鍛冶小屋岩→日暮岩→見下し岩→日暮岩→天狗の相撲場からの眺めは筆舌に尽くし難しである。遠く吾妻の山々、眼下に広がる取り入れの終わった信達平野、目の前に紅葉と大きな岩山と松の緑が程よく調和してこの世の極楽にあそぶような気分。護摩壇入口→子不知・親不知→護摩壇は前回も歩いたのであるが、所々記憶が欠けているが護摩壇に到着して思い出した。この場所は、目も眩む様な断崖絶壁の上に在り眼下に信達平野を望見することが出来る。遠い昔、修行に励む人々の心を推察した。

間もなく、11:30 に国司館跡→靈山城跡の広々とした跡地に到着し、日当たりの良い場所を選んで昼食となる。昼食を食べながら、前回の登山の時も疑問に思ったのが、国司・お城につとめて居られた方々の「水」をどうして確保していたのかと今回も考えました。一見した所それらしい痕跡は見つかりませんでした。大勢の人々が生活するには、大量の水を必要とするはずですが…。



登山計画では、下山は、東物見岩→蟻の戸渡り→望洋台→日暮岩→日暮岩入口→以下往路を下山するというものでしたが、加齢のため足に自信を無くした私たち4人は護摩壇の登山道を省略して、往路を辿り下山。間もなく計画のコースを歩いて下山した会員と合流。「光彩館」の温泉で見事な紅葉を眺めながら、今日の山行の疲れと汗を洗い流し、更に光彩館の近くで営業しているソフトアイスを美味しく食べ、往路を辿り夕闇迫る頃、家内の運転するマイカーで元気に帰宅しました。今日は美しい景色を堪能し、昼間から温泉に入り、美味しいものを食べ、家内の送迎を受けるなど幸せな一日でした。

K・S記

.....

おいしい♥12月(\*^\_^\*)  
「クワイ」

普段はあまり口にしません、クワイは芽が出るという縁起物です。ぜひ召し上がってみてください。

芽を残して皮をむき、米のとぎ汁か酢水で茹でてあく抜きをしてから含め煮などにします。

ホロッと苦味があるのですが、それがおいしいんですよ。

含め煮の他、薄切りにして油で揚げてもおいしくいただけます。

### <季節の花>

「<sup>きん</sup>柑<sup>か</sup>」

別名「姫橘」。

柑橘類の中でも果実が小さいことからついた名。



「金柑シロップ」  
種を取った果汁に砂糖と交互に入れます。  
約2週間程おいて。



金柑は皮ごと食べられるから、カルシウムもたっぷり。

「金柑ドレッシング」

皮ごとミキサーにかけて作ります。  
オリーブオイルや酢、しょうゆ、塩などで味をととのえて。

「金柑ジャム」コトコト煮込んで。

「金柑入りグリーンスムージー」も合う。★



手という存在

小生、最近木工でのクラフトを始めた。もちろん手作り。先ずは人に教えていただいで。道具もホームセンターで揃えた。やってみると、出来具合は別として、面白いものだ。今回は「手」の話題を。先ず「手と脳」の関係をちょっと。有名な哲学者カントは「手は脳の外部である」「手は第二の脳である」といったという。これはどういうことか。

全身の表面積の中で、手が占める割合は10分の1程度だが、手と指をコントロールするために使われる脳の領域は3分の1以上を占めるといわれる。指先には脳につながっている神経細胞が多い。手は脳と最も密接に結びついているというわけだ。ペンフィールド

(カナダの脳外科医・神経生理学者)の「脳内マップ」でみるとそれがよくわかる。そこで「手の役割」の重要性を表すものとして「手の付くコトバ」をみてみたい。皆さんはどんなコトバを思い浮かべるだろうか。その数はかなりありそうだ。整理した形で示せるものかどうか自信はないが、思い浮かぶものを極力挙げてみたい。

先ず、「手当」だが、病気やケガを治す意味だが、患者に手を当てるのが大事ということだ。この「手当」だが、別の意味もある。それは「給料」のことだ。「手間賃」という言い方もある。いずれも今は余り使わないかもしれない。愛情のこもった「手料理」や「手製」のものは有難い。将棋の世界は14歳の藤井聡太4段の連勝記録が話題になったが、対局の時「先手・後手」と使われる。そして「一手、一手、指し手」を考えるのだ。勝負に「手加減、手抜き」は命取りだ。手には「手腕」の意味が含まれる。「上手・下手」もあり、「やり手」や「名手」もいる。相撲では技、相手によって「あの手、この手」を使うかと考え、「決まり手」で勝負をつける。「手口」というとこれは犯罪関係で使うもの。また、人の意味もある。「手が足りない」、「手を貸してくれ」「人の手当」をするという言い方をし、自分の配下を「手下」といい、手頃な相手を「手合い」といい、「話し手・聞き手」ともいう。また、「歌手・選手・運転手」ともいう。それと方向を示す意味合いもある。舞台の「上手」「下手」と称したり、「行く手」や「山の手」というものもある。人間関係では「手を組む」「手を切る」といい、「手こずる」こともある。経済関係では「手形」があり、いろんな「手配」も必要だろう。「手工業」という分類もある。企業には「大手」もある。仕事では「手仕事」「手づくり」「手編み」などがあり、これらは総じて「手間」がかかる。仕事では「手探り」の中で終に「新手」の「手法」を考案し、新事業に「着手」する場合もある。それにしても「担い手」は大事だ。それと「手話」や「手紙」は大切なコミュニケーション手段であり、「握手」はこれまた人間関係を近くし、大事である。「拍手」は「讃嘆や感謝」の意を表し、これまた欠かせない。これで最後だが、年を重ねると何事も「手早く」やれないものだ。でも、服装は「派手」好みでいってみようか、なんてね。

ここまで「手」にまつわるコトバを取り上げてみたが、「手作りの世界」は「アートの世界」だなとつくづく思う。もちろん「手作り」するには道具が必要であり、そのための道具も工夫されてきている。機械化によって大量生産されたものと一味ちがうものがある。道具を使いながら、それぞれの「思い」が表現されている。先日NHKテレビをみていたら、こんなレポート番組があった。それは、鹿児島市に知的障害者施設「しょうぶ学園」の利用者の活動の紹介であった。福本施設長が言うのには、授産事業としてある規格品を作るのはどちらかというとも皆不得意で、喜んでやっている様子が見られなかったもので、その仕事は止めることとして、それぞれがやりたいことを見つけてやらせることにしたという。その結果がどうであったか。それぞれがマイペースで、自分のやりたいこと、表現したいものを見出していったというのである。やがて、それぞれの作品が人から買い求められるようになったり、芸術的価値が評価されるようになったりしたというのである。そこでその施設では「nuiプロジェクト」と称して、それぞれが伸び伸びとその持てる能力・感性を発揮できるよう支援に、環境づくりに努めているという。ものづくりに取り組む様子がテレ



ビでも紹介されていたが、例えば布切れや毛糸を使って一つの作品をマイペースで時間をかけて、持てる感性を発揮して仕上げていくのだが、仕上がった作品は既成概念に縛られない、いわばカルチャーショックを与えるもので、人に言いようのない感動を与える。その作業はひとつひとつの素材を縫い上げるようにして仕上げるのだが、我々からみると気が遠くなるような作業で面倒くさいと思われるが、彼らは自らの手を使って根気強くやり遂げるのだ。彼らには完成させるという概念はなく、作業のひとつひとつが喜びだというのである。これらの報道場面を見て、素材を選び、手を使ってその感性（内面）を表現する、その手の働きに注目したのである。手によって表現が具体化される。なんとその働きの偉大なることよ、といたい。手を使っての表現世界は大きな広がりを見せている。

考えてみると、人間は表現手段として「手」を使うことが圧倒的に多い。その中でも、手作りの世界は「手間がかかる」し、「面倒くさい」と思われてしまいがちだ。しかし、その作品は人の感性が表現される「美の世界」でもある。機械化による大量生産では得られない価値がある。それらは伝統工芸の世界に多い。これは世界共通であろう。世界共通といえば、その一つに民族衣装がある。手作りの編み物である。色鮮やかで手が込んだ、芸術性に富んだものだ。少数民族といわれる人達も立派な衣装を備えている。また誇りにもしている。日本でも着物は素晴らしい民族衣装だ。着物としては京友禅や藍染があるが、地元には会津木綿が復活したそうだ。京友禅は、本格的な、伝統の手書き友禅だと完成まで26の工程があるとのことだ。染めの工程、織りの工程、水洗いの工程、絵柄の色を手書きで挿す工程など大変な手間がかかる（今は省力化が図られている）。伝統工芸というものは皆手間をかけて心を込めて丁寧に仕上げられたものなのだ。改めて先人の心延（ば）えや美意識に頭の下がる思いである。どうか今後とも引き継がれていくよう願うものである。さて県内の話しに変わるが、手作りの工芸品といえば、三島町のことを紹介したい。三島町は只見川沿いの奥会津に位置する。山また山に囲まれた地形で、冬は雪深い。三島町は桐の産地として知られていて、タンスなどの桐製品も作られていた。実はその他にも三島町には優れた伝統工芸品があるのである。編み細工と言われるものだ。自然の恵みを生かしているのである。雪深い冬の手仕事として生活に必要なものを作っていたのだ。それが今は製品のブラシアップを図って売り出しているのである。町の生活工芸館に行くとそれらが並べられている。通信販売でも対応している。結構高級感のあるものもある。どんなものがあるかと言えば、山ぶどう細工、マタタビ細工、ヒロロ細工、アケビ細工などである。細工ものだから、これこそきめ細かな作業が伴い、手間がかかる。三島の人達は手間のかかるのを厭わず、楽しんでいる様子がうかがえる。これも一つの生き方だと思う。

小生はかねてから陶器や仏像にも関心を持って見てきた。造詣が深いと言えるところまではいっていないが、手作りの造形美の世界にしばしば感嘆させられている。人の心を惹きつけるということは、作者の美意識がその作品に表現されているということだと思われる。つまり、作者の美意識を表現する役割を「手」が見事に果たしてくれているということだ。「手」の存在をつくづく有難いと思う。小生としても、木工のクラフトを楽しみ、幅を広げていきたい。小さいながらも仏像など彫ると、新境地が開けるかも知れない。



<会社近況>

明け方、外が明るい！と思って見てみると、一面雪に覆われていました。一晩でどっさり降ったようです。

しーんと静かな朝。

吹いてくる風はとても冷たく、身も心も引き締まるようです。

遠くに見える信号機の点滅が、雪景色の中とても美しく幻想的でした。

これから本格的な雪の季節。

皆様、どうかお体大切にお過ごし下さい。

現在は、事務所近くの現場で住宅新築工事をさせていただいております。また、本宮市の現場では住宅修繕工事が始まりました。

今年も皆様方には大変お世話になりました。皆様方に支えて頂き何とか1年を過ごすことができました。ありがとうございました。

…お知らせ…

★年末年始休業のお知らせ★

H29、12/30（土）～ H30、1/5まで休ませていただきます。

H30、1/6（土）…仕事始め

1/7（日）…休み

1/8（月）…休み

ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

\*\*\*\*\*

平成29年12月5日発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者>幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡1-1

電話…0243-44-3816

<後記>

今年も残すところわずかとなりました。皆様方には大変お世話になりました。

どうかよいお年をお迎え下さい。

(事務員 k)